

令和5年度 クリニカルラダーレベル I 評価表

No 1

所属

氏名

目標	1. 健康生活支援の援助のための知識・技術・態度を身につけ、安全確実に助産ケアができる 2. 助産師外来についてその業務内容を知ることができる 3. ハイリスク事例についての病態と対処が理解できる 4. 支援を受けながら、基礎的な知識・技術・態度を身につけ、ウイメンズヘルスケアができる 5. 地域ニーズの把握、地域資源の活用、他職種連携・協働の必要性が理解できる
----	--

評価基準
4 できる
3 ほぼできる
2 あまりできない
1 できない

項目	小項目	自己評価		教育担当者		
		10月	2月	10月	2月	
倫理的 力感	目標	ケアリングの意味・主要な概念や理論が理解できる				
	実践	1. ケアリングの重要性を理解し、主要な概念をもとに行動できる ①ケアリングの定義と5つのカテゴリーを理解し、関わることが出来る				
マタニティ ケア能力	情報 収集	目標	妊婦とその家族が心身共に安定・快適な生活が送れるように妊娠期の情報を理解できる			
		実践	1. 妊娠期の健康生行動診断・経過診断に必要な情報を理解できる ①ケアの受け手に必要な身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から情報を収集することができる ②ハイリスクの要因について理解し、関連する情報を明らかにすることができる			
			2. 妊婦とその家族に対する課題・ケア方針が理解できる ①定められたフォームに従い、情報収集を行う。 ②不足している情報がわかり、必要な追加情報を収集できる			
	(ア セス ズ メン)の ト 明 確 問 化 題	目標	収集した健康生行動診断・経過診断の情報を分析できる ハイリスクの要因について理解できる			
		実践	1. 得られた情報から健康生行動診断・経過診断が分析できる ①妊婦の正常経過が理解できる			
			2. 母体および胎児に関する周産期の代表的疾患・病態生理および検査について理解できる 3. 2. に基づき母体および胎児の異常への対処と援助が理解できる			
	診 断	目標	必要に応じて支援を受けながら、健康生行動診断・経過診断によって適切に診断できる			
		実践	1. 妊婦とその家族が心身共に安定・快適な生活がおくれるように妊娠期の健康診断を行うことができる ①健康生行動診断・経過診断によって適切に診断できる 2. 必要に応じて支援を受けながら、妊婦・胎児の状態に合わせ標準的に観察ができる。観察する意味と関連項目を理解し正常から逸脱する場合の異常値(データなど)の出現時に、助言を受けながら対応できる ①現在および今後の妊娠経過に関する異常を発見または予測できる			
	計 画 立 案	目標	妊婦の状態・問題リスト、目標に一貫性がある計画がたてられる			
		実践	1. 助産ケア基準・標準助産計画を活用し、妊娠経過に沿った計画が立案できる ①妊婦のニーズ、パースプランに沿って目標を設定できる ②支援を受けながら、妊婦および家族参加型の助産計画を立案できる 2. 支援を受けながら、合併症を有する妊婦に対して助産計画を立案できる			
	実 践	目標	支援を受けながら、基本的助産技術が実施できる			
		実践	1. 助産ケア基準・手順に沿って正しくかつ安全に実践できる ①助産計画に基づき、基準や手順に則り安全確実に助産ケアを実践できる ②助産ケア基準や手順に沿って正しい用語・適切な表現で記録できる 2. 妊産褥婦・新生児における緊急時の対処方法が理解できる ①母体救命講習会・新生児蘇生法および小児救急講習に参加し、緊急時の対応を理解する ②乳幼児安全教室にファシリテーターとして参加する ③緊急時に必要な物品を知り、手順に沿って整備できる ④日本助産評価機構オンデマンド研修「災害時対応」を受講する			
評 価	目標	支援を受けながら根拠に基づき自分の行った助産ケアを評価できる				
	実践	1. 継続する問題について計画を修正できる 2. 助産ケアを要約して記述できる				

項目	小項目	自己評価		教育担当者		
		10月	2月	10月	2月	
専門的自立能力	教育	目標	継続教育プログラムに自主的に参加できる			
	実践	1. 自己のレベルに合った院内外の研修や勉強会に参加する 2. 教育・指導についての基本的事項を理解できる ①支援を受けながら、妊産褥婦を対象とした保健指導が実施できる				
専門的自立能力	倫理	目標	職業人として自覚をもち、倫理に基づいて行動できる			
	実践	1. ICM、ICN、日本看護協会-看護師の倫理要領について日常の助産ケアに関連付けて理解できる ①倫理セミナーに参加および日本助産実践能力推進協議会オンデマンド研修を受講する ②医療倫理コンサルテーションチーム主催のいのちの教室に参加する				
ウイメンズヘルスケア能力	女性のクセの対称的観点から	目標	女性の成長に伴う身体、精神と社会的機能状況について、共感的態度をもち、対象への理解を示すことができる			
		実践	1. 女性のライフサイクル特有の問題の管理に向けた健康教育を理解できる ①富山県看護協会「プレコンセプションケア」 ②産後ケアWGチームの健康講座に参加する 2. 女性特有の疾患を有する女性の支援に必要な医学的知識や女性の身体、精神と社会的機能状況のアセスメント、支援方法について理解できる ①★学研e-ラーニング「AYA世代における思春期のがん患者へのACP実践から学ぶ」			
	妊娠から子育て期における支援	目標	生涯を通じた女性の健康支援について理解することができる			
		実践	1. 産前・産後のメンタルヘルスケア支援に必要な知識やアセスメント、支援方法について理解することができる ①★日本助産評価機構オンデマンド研修「メンタルヘルス」 ②産後ケアWG会議での事例検討会に事例提供できる ③新生児訪問、産後ケア(デイ型、アウトリーチ型)を実施する			
			2. 産前・産後の支援に係る健康教育を理解できる ①支援を受けながら産後のマイナートラブルについての指導案を作成する。 ②支援を受けながら骨盤ケア・リラクゼーションケアについての指導案を作成する。			
			3. 母乳育児支援に必要な知識やアセスメント、支援方法について理解できる。 ①母乳に関する院外研修を受講する。			
			4. 母乳育児支援に係る健康教育を理解できる ①支援を受けながら母乳育児支援、児との愛着形成と親役割獲得について指導案を作成する。 ②支援を受けながら授乳期の薬と栄養について指導案を作成する。			
			5. 新生児から乳児までの発育・発達の変化について理解できる ①小児科で行われる1か月健診、予防接種、上市町で行われる4か月健診を見学する。 ②乳幼児の正常発達と発達支援について研修を受講する			
	6. 妊娠から子育て期において特に支援を要する母親とその家族に対して必要な知識やアセスメント、支援方法について理解できる。 ①富山県看護協会「地域における子育て支援」 ②富山県看護協会「虐待とネグレクトを予防する」					
	現代女性の健康問題	目標	現代女性の健康問題について理解できる			
実践		1. 不妊、不育の悩みをもつ女性とパートナーの支援に必要な医学的知識や不妊や不育の悩みをもつ女性とパートナーの身体、精神と社会的機能状況について理解できる 2. 不妊症、不育症に係る健康教育を理解できる ①日本助産師評価機構オンデマンド研修「不妊・不育の悩みを持つ女性の支援」				
		3. 女性のライフサイクル特有の問題の管理に向けた健康教育を理解できる ①産婦人科医より、月経異常・月経障害について講義を受講する				
セクシャルヘルス	目標	多様な性について理解することができる				
	実践	1. 家族計画の支援に必要な医学的知識や女性とパートナーの身体、精神と社会的機能状況のアセスメント、支援方法について理解できる。 ①家族計画に係る健康教育を理解できる 2. 多様な性の支援に必要な知識や多様な性の身体、精神と社会的機能状況のアセスメント、支援方法について理解できる。 ①富山県看護協会「ジェンダー(LGBT)への理解				

	自己評価	評価者のコメント
10月		
2月		

総合評価 合 否

令和 年 月 日 部長印

評価者 印
所属長 印